

PROFICIENCY SCALE

TOEIC®スコアとコミュニケーション能力レベルとの相関表

レベル	TOEIC スコア	評価 (ガイドライン)
A	860	<p>Non-Nativeとして十分なコミュニケーションができる。</p> <p>自己の経験の範囲内では、専門外の分野の話題に対しても十分な理解とふさわしい表現ができる。Native Speakerの域には一步隔たりがあるとはいえ、語彙・文法・構文のいずれをも正確に把握し、流暢に駆使する力を持っている。</p>
B	730	<p>どんな状況でも適切なコミュニケーションができる素地を備えている。</p> <p>通常会話は完全に理解でき、応答もはやい。話題が特定分野にわたっても、対応できる力を持っている。業務上も大きな支障はない。正確さと流暢さに個人差があり、文法・構文上の誤りが見受けられる場合もあるが、意思疎通を妨げるほどではない。</p>
C	470	<p>日常生活のニーズを充足し、限定された範囲内では業務上のコミュニケーションができる。</p> <p>通常会話であれば、要点を理解し、応答にも支障はない。複雑な場面における的確な対応や意思疎通になると、巧拙の差が見られる。基本的な文法・構文は身につけており、表現力の不足はあっても、とにかく自己の意思を伝える語彙を備えている。</p>
D	220	<p>通常会話で最低限のコミュニケーションができる。</p> <p>ゆっくり話してもらおうか、繰り返しや言い換えをしてもらえば、簡単な会話は理解できる。身近な話題であれば応答も可能である。語彙・文法・構文ともに不十分なところは多いが、相手がNon-Nativeに特別な配慮をしてくれる場合には、意思疎通をはかることができる。</p>
E		<p>コミュニケーションができるまでに至っていない。</p> <p>単純な会話をゆっくり話してもらっても、部分的にしか理解できない。断片的に単語を並べる程度で、実質的な意思疎通の役には立たない。</p>

TOEICテストを開発・制作した米国の非営利テスト開発機関ETS (Educational Testing Service) では、Communicative Proficiency (コミュニケーション能力) とTOEICスコアとの相関について裏付・検証調査 (Validity Study) を実施いたしました。上記 Proficiency Scale は、その調査結果から作成されたものです。各自の TOEICスコアが「どの程度の Proficiency か」の目安としてご参照ください。ただし、この Proficiency Scale は本来、それぞれの状況や、各自の置かれたコミュニケーションの環境を考慮して解釈されるべき性格のものです。ですから、実際の Score Interpretation (スコアの解釈) は、現実に英語力を求められる個人や学校、あるいは企業・団体によって規定されることとなります。

資料作成：一般財団法人 国際ビジネスコミュニケーション協会